



放射線治療を知ってください



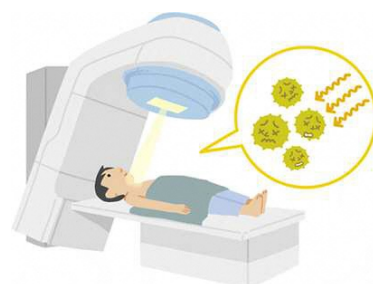
辰巳 智章 (たつみ としあき) 放射線科主任部長

—はじめに— 放射線治療は手術治療、抗がん剤治療とともにがんの3大治療の一つとされています。抗がん剤治療は全身に散らばったがん細胞に対する治療法ですが、放射線治療は手術治療と同様に局所に留まったがん組織に対する治療法です。日本では、まだ放射線治療を受けられる方はがん患者のうち30%程度と少ないですが、欧米では過半数の人が受けています。今回は放射線治療の流れについてご紹介いたします。

放射線治療を受けるために皆さんが直接放射線科に来られることはありません。各科の主治医が「放射線治療が出来るのではないか、受けたほうが良いのではないか」と判断されたとき、当科に依頼をいただきます。当科では放射線治療によるメリットがあると判断できれば放射線治療をお勧めします。治療の同意を得られれば治療を行う部位のCT撮影を行い、その画像を用いて、どの様に放射線を当てるか計画を立てます。その後皆さんには土・日・祝日を除いて毎日放射線治療に通っていただくことになります。

放射線治療の目的は、大きく分けると、根本的な治療を目指すものと、症状の緩和を目指すものがあります。根本的な治療を目指す場合は25回～30回程度(期間としては1.5か月程度)の治療が必要となります。これは多くの回数に分割することによって、副作用を軽減させるためです。放射線治療では基本的には局所の副作用しか起こらないので、外来通院で治療が可能です。ただし、頭に放射線を当てる場合や、強い抗がん剤を同時に使用する場合には入院が必要となります。症状の緩和は、がんによる疼痛の緩和、骨折や麻痺が出現することの予防、がんによる出血を止める等の効果が期待できます。症状やその方の状態に応じて1回～10回程度の治療を行います。

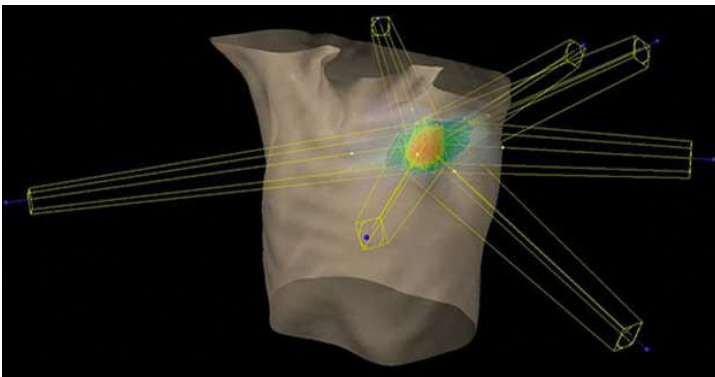
放射線治療では狙った腫瘍だけに、放射線があてられる訳ではなく、周囲の正常組織にもある程度の量の放射線があたってしまいます。放射線による有害事象には晩期障害というものがあります。2年後～20年後ぐらいに起こる恐れのある副作用のことで、難治性のものが多いです。我々はこの晩期障害が起こらないように治療計画を行い、正常組織へあたってしまう放射線量の低減に努めています。



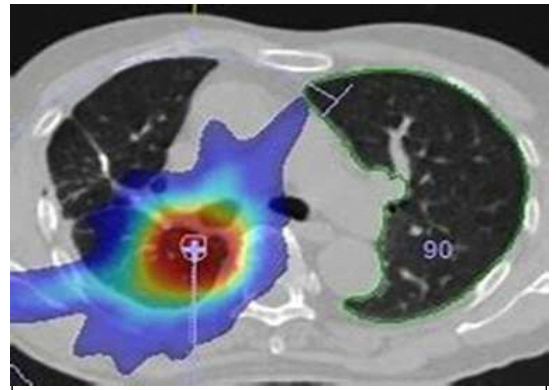
当院で行っている特殊な放射線治療として定位放射線照射というものがあります。腫瘍に対し多方向から集中的に大きな量の放射線を照射する方法です。この方法を用いると腫瘍に対する効果は非常に大きいですが、腫瘍周囲の正常組織にも大きな放射線量があたってしまうというデメリットがあります。したがってすべてのがんに対して行える治療ではなく、転移性脳腫瘍や比較的早期の肺癌等限られた疾患に対してのみ行える治療です。小さな転移性脳腫瘍に対しては第1選択の治療であり、当院では8か所程度まで対応しています。4か所以内であれば1日で、8か所以内であれば2日で治療は終了します。比較的早期の肺癌(他臓器やリンパ節転移がなく、5cm 以内の肺癌)では手術治療に対し治療成績はやや劣るものの4日間で治療は終了し、入院の必要もありません。



2方向から放射線を当てた場合の放射線量分布



肺癌に対する定位放射線照射のイメージ



毎日の治療には放射線治療の専門資格を持った放射線技師が携わっており、我々スタッフは皆さんに分かりやすく、安心して治療を受けていただけるよう心がけております。放射線治療を受けられる際には、なんでも気兼ねなくお聞きください。



患者の皆さまの立場にたち、常に思いやり・優しさをもって、
多様化する医療に対応したサービスを提供します。

新任医師の紹介

おおつ かすや
大津 和弥 耳鼻咽喉科部長



10 月より耳鼻咽喉科に着任しました大津と申します。卒業後はそのまま母校の三重大学へ入局し、頭頸部外科、喉頭を専門に診療しておりました。7 年半前に地元大阪に戻り、喉頭枠組み手術を開発され世界的に有名な一色信彦先生、田邊正博先生のもとで数多くの音声外科手術を経験しました。市立ひらかた病院でも耳鼻咽喉科全般に加え、頭頸部腫瘍及び音声外科と特色ある治療も行っていきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

しば ひろゆき
斯波 宏行 脳神経外科医長

この度、10 月から脳神経外科に着任致しました斯波宏行と申します。9 月までは大阪医科薬科大学病院に勤務しておりました。脳神経外科は、頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍、脊椎・脊髄疾患等、幅広い分野を担当する診療科であり、その人の今後の生活、そして人生に深く関わってきます。これまでの経験を生かし、また多くの先生方をはじめ、この市立ひらかた病院の職員の方々とともに、枚方市の医療に貢献できればと思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。



市民公開講座を開催しました

7 月 30 日「外反母趾の治療について」



本院整形外科部長・下肢機能再建センター副センター長の飛田医師より外反母趾の治療や予防・対策について、写真も多く活用しながら詳しくお話ししました。市民のみなさんの関心がとても高く会場がいっぱいになり、講座終了後も医師に熱心に質問される姿が見られました。

10 月 5 日「子宮頸がん予防のために」

本院産婦人科副部長の田吹医師より、HPVワクチンの必要性や安全性などを中心に、日本でのワクチン接種の現状に対する産婦人科医の見解をお話しました。娘さんのいる女性の参加が多く、HPVワクチンの種類や回数、費用など、具体的な質問がたくさん出され、話を聞いて安心したとの声も寄せられました。



登録医療機関のご紹介



のだ女性クリニック

枚方市岡東町2丁目 14-48 山口ビル4階

TEL 072-843-3267

診療科 婦人科／産婦人科／女性内科



野田穂寿美先生

のだ女性クリニックは、2017年8月、中島レディースクリニックを継承して開院され、今年で5年目を迎えられました。以前に野田先生が勤務医として働いておられた際、患者さんに身近なところで診療したいと思われたのが開院のひとつのきっかけとのことです。

患者さんは40～50代の方が多く、更年期や月経困難症、月経不順、不正出血など様々な理由から受診されています。お母さんがご自分の受診の際に娘さんのことを相談され、その後母



子で受診される患者さんもおられるそうです。子宮頸がんや骨粗鬆症の検査、特定検診もされています。産科に関しては、妊娠の診断、分娩予定日決定までをされているとのことです。また、日々の診療の中

で、性に関する知識があればもう少し早く受診してくれていたのではないかとの思いから、年に1～2回、中学・高校で性教育の講演にも取り組んでおられます。

各ライフステージで様々な疾患や悩みに遭遇する女性のかかりつけ医として、何か気になることがあれば気軽に受診してみてください、とのメッセージもいただきました。野田先生、どうもありがとうございました。



ひがき歯科クリニック

枚方市御殿山町 16-1

TEL 072-898-8090

診療科 歯科／小児歯科／歯科口腔外科



日垣孝一先生

ひがき歯科クリニックは2009年10月開業で、丸12年を迎えられました。日垣先生は地元のご出身で、子どもの頃のお母さんなどが来院されることもあるそうです。町の歯医者さんとして、歯周病をメインに診療され、定期的な検診をされています。

日々の診療では、年齢層が0、1歳から高齢者まで幅広く、若い方は見た目を気にされることが多い一方で、高齢の方は痛くないように等、個人個人の希望に合わせた治療をされています。

歯医者に行きづらくなると、間があいて状態が悪化してしまうこともあるので、日垣先生は患者さんが通いやすいように敷居をさげることを心がけておられるそうです。クリニックの雰囲気が変わらないよう、先生がスタッフ一人一人に声をかけるようにしてコミュニケーションをとり、長く勤めてもらうようにされているとのことで、スタッフみんな撮られた写真からも、クリニックの和気あいあいとした雰囲気が伝わってきました。

最後に、患者さんに対して、処置をした後にはそのままにせず、ぜひ定期的な検診をしてくださいとのメッセージをいただきました。日垣先生、どうもありがとうございました。

